

# 図画工作科学習指導案

実施期間 平成23年6月21日(火)～6月28日(火)

実施学年 第5学年

指導者 新島 英幸

## I 題材名 「気持ちを表す形や色」

## II 題材の考察

### 1 児童の実態 (略)

### 2 題材の価値

本題材は、「気持ちや感じ、雰囲気」を形や色で表し、材料や用具を工夫しながら自分らしい表現を見付ける活動である。高学年の児童は、文房具などの日用品を自分の好みで選ぶ児童が増えてくる。鉛筆や消しゴム一つとってみても多種多様なものがあり、その中から自分がほしいものを選んで購入する。選ぶ基準となるものは、形や色であったりする。つまり児童は、自然に形や色からのイメージなどをとらえている。

しかし、児童が文房具を選ぶのは、あくまでも無意識のうちに形や色からのイメージをとらえているのであって、そのイメージを意図的に言葉で表したり、作品で表したりする力は十分ではない。

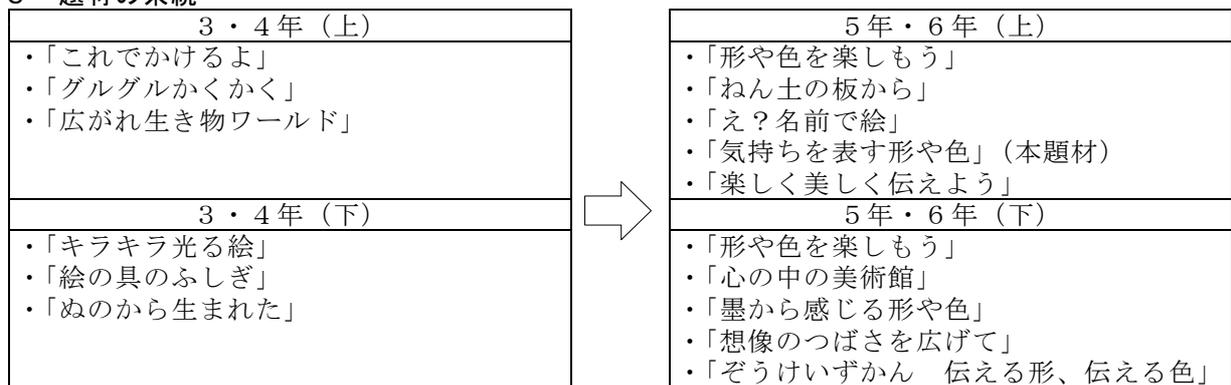
そこで、意図的に自分のイメージを表現できるようになれば、画一的な表現の作品でなく、自分らしい表現の作品が製作できると考えられる。自分らしさを追求しながら作品製作をすることによって、発想や構想する力が高められると考えられる。

意図的に自分らしい表現ができるようにするためには、〔共通事項〕で示された形や色を発想や構想の視点として明確にすることが有効である。また、イメージを自分の意図する表現に近付けていくため試し活動を行うことも有効である。

形や色は、見る人に様々なイメージを与えてくれる。例えば、丸い形から穏やかなイメージを受けたり、とがった形から緊張感のあるイメージを受けたりする。色についても、明るい色から楽しいイメージを受けたり、濁った色から暗いイメージを受けたりする。また、同じ形や色でも、見る人によって受けとるイメージは変わってくる。つまり、〔共通事項〕で示された形や色を視点としてイメージをとらえることは、感性を働かせながら造形活動をおこなう上で根幹をなすものであると言える。

そこで、形や色を視点として、イメージを言葉で表したり、材料を並べたり、絵の具や筆で描いたりする試し活動を繰り返し、イメージを具現化する一連の過程を繰り返すことにより、発想や構想する力を高められると考えられる。

### 3 題材の系統



#### 4 指導方針

(1) イメージを膨らませる段階では

- 導入時に、簡単な形や色のゲームを取り入れ、スムーズに授業に入れるようにする。
- 「気持ちや感じ、雰囲気」を表した数種類のカードを用意し、カードで意思表示ができるようにして、自分の気持ちをためらわずに表せるようにする（慣れてきたら、カードは使わず自分の言葉で発表する）。
- 参考作品で表現されている形や色のどのようなところから、「気持ちや感じ、雰囲気」を感じられるか、意見を交流しながら、気付きの共有化と広がりを図る。
- 「気持ちや感じ、雰囲気」とは、「喜び」「怒り」「あたたかい」「さわやか」「ふわふわ」「ぐるぐる」などの心情や雰囲気を表す様子にとらえる。
- 参考作品は、教師が描いた作品や意図的に選んだ芸術作品を使用する。
- 「グローアップチャート『みっけタネ』」の活用について

「みっけタネ」①	形や色を視点として、作品から受けるイメージや作者の表現意図を読み取る。
「みっけタネ」②	形や色を視点として、自分の思いをイメージし、形や色を使って効果的に表す。

- 「図画工作科ノート」の活用について
  - ・アイデアスケッチを描く。
  - ・材料を組み合わせる場にする。
- 毛糸やビーズなどの材料は教師が用意する。
- 毛糸やビーズを並べてイメージした児童の表現は、デジタルカメラで撮影して「図画工作科ノート」に綴じておく。

(2) イメージを練り上げる段階では

- 「グローアップチャート『みっけタネ』」の活用について

「みっけタネ」③	相互鑑賞で感想を交流し合い、他者の見方や考え方に気付き、発想を広げていく。
「みっけタネ」④	発想を具現化し、より自分の意図する表現へ近付けるための構想を練り上げる。

- 「図画工作科ノート」の活用について
  - ・広げたイメージを振り返ったり、確かめたりする。
  - ・イメージの変容を見直す。
  - ・アイデアスケッチを見直す。
  - ・アイデアスケッチを描き加える。
  - ・アイデアスケッチを組み合わせる。
  - ・相互鑑賞で互いの意見を書き込む。
- イメージを具現化するために次のようなことと照らし合わせて考える。
  - 「線や形がつくりだす動き」「色の調子」「材料の質感」「組み合わせによって生まれる変化」「響き合う配置」「奥行きを感じや方向感」「色の組み合わせによる強さ」など

### Ⅲ 目標及び評価規準（報告書P4参照）

### Ⅳ 指導計画（報告書P4参照）

### V 本時の学習（1・2時間目／4時間）

#### 1 ねらい

自分の「気持ちや感じ、雰囲気」を形や色で表すことを楽しみ、効果的に表すよう試みる。

#### 2 準備

教師：参考作品、「みっけタネ」①、「みっけタネ」②、ビーズなどの様々な材料、「気持ちや感じ、雰囲気」を表した数種類のカード、デジタルカメラ  
 児童：「図画工作科ノート」、鉛筆、はさみなど

### 3 展開

過程	時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
		ー線は〔共通事項〕を視点とした「みっけタネ」の活用、～線は「図画工作科ノート」の活用、□観点(評価方法)	
	20分	1 形や色だけで「気持ちや感じ、雰囲気」を表すことができることを知る。 ・参考作品を見て、理由を考えながら、感じたことを発表する。  ・形や色で「気持ちや感じ、雰囲気」を表現できることを確認する。	○導入時に簡単な形や色のゲームを取り入れ、授業に入りやすい雰囲気をつくる。 ○「みっけタネ」①で、形や色を手がかりとした鑑賞の視点と思考のプロセスを提示する。 ○形や色だけで、「気持ちや感じ、雰囲気」を表現した参考作品を提示する。 ○自分の気持ちを、ためらわずに表せるように、「気持ちや感じ、雰囲気」を表したカードを使って発表する(慣れてきたら、カードは使わず自分の言葉で発表する)。 ○形や色のどのようなところが、「気持ちや感じ、雰囲気」を表しているか具体的に示し、全体で意見を交流しながら気付きの共有化と広がりを図る。その際、出来るだけ児童の発言を取り上げ、視点の場所に印をつけて示し、すべての児童が気付けるようにする。 ○形や色で「気持ちや感じ、雰囲気」を感じ取れるとともに、形の動き、なめらかさや堅さ、リズム、色の特徴や組合せなどで、「気持ちや感じ、雰囲気」を表せることに気付けるようにする。 <Bの児童への手だて> 児童のつぶやきや表情から考えを見取り、よさを認めてあげて発表しやすい雰囲気をつくる。 <Bに達していない児童への手だて> 児童のつぶやきや表情からつまづきを見取り、意図的指名や個別支援で、取り組みを促す。  <本時の評価項目> A [十分満足できる状況] 関 言葉ではなく、形や色で「気持ちや感じ、雰囲気」を表すことに興味をもって取り組み、進んで考えを発表できる。 (観察、つぶやき、ビデオ、発言) B [おおむね満足できる状況] 関 言葉ではなく、形や色で「気持ちや感じ、雰囲気」を表すことに興味をもって取り組もうとしている。 (観察、つぶやき、ビデオ)
	65分	2 学習課題を知る  ・「 <u>図画工作科ノート</u> 」に <u>毛糸やビーズを並べたり、並べ替えたりし、いろいろな試し活動をする</u>	○「みっけタネ」②で、形や色を手がかりとした発想の視点と思考のプロセスを提示する。 ○どのような気持ちがあるか児童に問いかけ、板書しておく。 ○「図画工作科ノート」の使い方を、教師が手本を見せながら説明する。 ○材料コーナーをつくっておき、自由に材料を使えるようにする。 ○出来上がったイメージがどのような「気持ちや感じ、雰囲気」を表せたか考えながらつくることを伝える。 ○毛糸やビーズなどの固定が困難な材料については、 <u>並べたものをデジタルカメラで撮影して記録しておく</u> 。 ○デジタルカメラは、5～6人で1台を使えるようにしておき、名前カードを作品中央下に並べて撮影することを知らせる。 ○撮影した画像は次回の授業までに印刷しておく。
イメージを膨らませる段階			

		<p>&lt; Bの児童への手だて &gt;          児童との会話から考えを聞き取り、具体的な発想の視点を示し、より多くの表現方法を見付けられるようなアドバイスをする。</p> <p>&lt; Bに達していない児童への手だて &gt;          児童との会話から考えを聞き取り、教師が具体的な操作を示しながら、発想するためのアドバイスをする。</p>
		<p>&lt; 本時の評価項目 &gt;          A [十分満足できる状況]  <b>想</b> 「気持ちや感じ、雰囲気」が表せるように、形や色を視점에試し活動を繰り返し、様々な表し方を考えている。          (観察、つぶやき、作品を写した写真、ビデオ)          B [おおむね満足できる状況]  <b>想</b> 「気持ちや感じ、雰囲気」が表せるように、形や色を視점에試し活動を行い、表し方を考えている。          (観察、つぶやき、作品を写した写真、ビデオ)</p>
5分	3	<p>本時の学習を振り返り、次時の学習を知る。</p> <p>○児童の感想から、難しかったところや、うまく出来なかったところを聞き取り、解決のヒントになるような参考作品を次時まで選定しておく。</p>

## V 本時の学習 (3・4時間目 / 4時間)

### 1 ねらい

テーマをもとに、自分の「気持ちや感じ、雰囲気」を形や色で表すことを楽しみ、効果的に表すよう試みる。

### 2 準備

教師：「みっけタネ」、デジタルカメラなど

児童：「図画工作科ノート」、水彩絵の具など

### 3 展開

過程	時間	主な学習活動	支援及び指導上の留意点
		<p>一線は〔共通事項〕を視点とした「みっけタネ」の活用、～線は「図画工作科ノート」の活用、□観点(評価方法)</p>	
	25分	<p>1 前時の学習を振り返り、自他の作品を鑑賞する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前時に製作した作品を鑑賞し、表現の工夫や意図を知る。</li> <li>前時に製作した自分の作品を振り返り、<u>気持ちが表せた理由を分析し、「図画工作科ノート」に記入する。</u></li> <li><u>相互鑑賞を行い、友達の「図画工作科ノート」に感想を書き合う。</u></li> </ul>	<p>○「みっけタネ」③で、再度形や色を手がかりとした鑑賞の視点と思考のプロセスを提示する。</p> <p>○前時に製作した表現に特徴のある作品を数点紹介する。その際、<u>鑑賞の視点や思考のプロセスを一斉に確認する。</u></p> <p>○前時に製作した作品の写真を配布し、<u>「図画工作科ノート」の中央に貼る</u>ように指示する。</p> <p>○自分の作品のどのようところが「気持ちや感じ、雰囲気」を表しているか、<u>分析結果と作品を矢印で結ぶ。</u></p> <p>○友達の作品のどのようところが「気持ちや感じ、雰囲気」を表しているか、<u>感想と作品を矢印で結ぶ。</u></p> <p>○感想は、<u>友達の作品の周りに書き</u>、その際は、マイナスのコメントは書かないように伝える。</p> <p>&lt; Bの児童への手だて &gt;          児童の発言、つぶやきから考えを見取り、よさを認めながら、他の見方にもふれ、見方や感じ方を広げていく。</p>

		<p>&lt;Bに達していない児童への手だて&gt; 児童との言葉のやりとりから、感じたことを徐々に具体的なものにしていく。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;本時の評価項目&gt; A [十分満足できる状況] 鑑 自他の作品を見て、表された「気持ちや感じ、雰囲気」を想像し、様々な視点からお互いのよさを感じ取っている。 (「図画工作科ノート」の様々な記述、観察、つぶやき、ビデオ) B [おおむね満足できる状況] 鑑 自他の作品を見て、表された「気持ちや感じ、雰囲気」を想像し、お互いのよさを感じ取っている。 (「図画工作科ノート」の記述、観察、つぶやき、ビデオ)</p> </div>
55分	<p>2 学習課題を知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学習課題 テーマをもとに、自分の「気持ちや感じ、雰囲気」を形や色で表そう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマを決めて、表したい「気持ちや感じ、雰囲気」を表す。</li> <li>・「<u>図画工作科ノート</u>」に、<u>絵の具と筆で試し活動を繰り返しながら、意図する表現方法を見付けていく。</u></li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;イメージを具現化するために、押さえておきたい視点&gt; 「形や色が作り出す動き」「色の調子、材料の質感」「組み合わせによって生まれる変化」「響き合う配置」「奥行きや方向感」「色の組み合わせによる強さ」など</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○「みっけタネ」④で、形や色を手がかりとした構想の視点と思考のプロセスを提示する。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>○絵の具と筆の方がより自由にイメージを表現できることを伝える。</li> <li>○意図的に表現できるように、例えば「楽しい気持ちを表すには、このような形や色を使えば表せる」など、毛糸とビーズを並べて表した学習を想起しながらイメージを練り上げるように伝える。</li> <li>○<u>試し活動を繰り返せるように、「図画工作科ノート」は納得がいくまで何枚使ってもよいことを知らせる。</u></li> <li>○「図画工作科ノート」の用紙を使い切ってしまった時のために、予備の用紙を用意しておく。</li> </ul> <p>&lt;Bの児童への手だて&gt; 児童との会話から表現の意図を聞き取り、具体的な構想の視点と照らし合わせながら、製作へのアドバイスする。</p> <p>&lt;Bに達していない児童への手だて&gt; 児童との会話から表現の意図を聞き取り、教師が具体的な操作を示しながら、製作へのアドバイスをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>&lt;本時の評価項目&gt; A [十分満足できる状況] 技 「気持ちや感じ、雰囲気」に合わせて線の形や色などを考え、試行錯誤しながら様々な表し方を工夫している。 (「図画工作科ノート」の記述、観察、つぶやき、ビデオ) B [おおむね満足できる状況] 技 「気持ちや感じ、雰囲気」に合わせて線の形や色などを考え、試行錯誤しながら表そうとしている。 (「図画工作科ノート」の記述、観察、つぶやき、ビデオ)</p> </div>
10分	<p>3 友達の作品を鑑賞し、作品が表している、「気持ちや感じ、雰囲気」を想像することを楽しむ。</p>	<p>○児童の作品を数点取り上げ、意見交換をしながら、作品が表している、「気持ちや感じ、雰囲気」を探っていくようにする。</p>